



6分34秒 2024/01/23

神戸市の津波・高潮対策

●YouTube サツレビニュース



(津波限定ではありませんが是非、生活・行動パターン等に合わせて、各人複数作成してみてください。)

7分25秒 2022/04/27

～マイ避難カード編

②教えて！コウノトリ博士

●兵庫県防災ムービー

兵庫県議員(神戸市垂水区)
建設常任委員会 委員長 自民党 県議団 建設副部会長

吉岡たけし

よっしー 号外 通信



CONTENTS [南海トラフ] 巨大地震から命を守る為に。

- 表面** ・揺れがやんだら即逃げて！
- ・おすすめ防災動画・資料
- 裏面** ・マイ避難カードの複数パターン作成第364回定例会(令和5年9月28日)質問要旨
- ・津波2つの到達時間 即逃げて！令和6年度予算特別委員会質問要旨

県政



た。
和5(2023)年3月29日発表しました。
備えた防潮堤の補強が完了したと令
神戸市は、1000年に1度の津波に
ればと号外で発信させて頂きます。

きたい！この一力で、皆様の一助とな
貴方の大切な方々全員に生か延びて頂
「南海トラフ巨大地震」が発生しても、貴方や
「南海トラフ巨大地震」が発生しても「南海ト
将来、いつ、どこにいても「南海ト
どこにいるかはまだ分かりません。

方々の将来の一瞬、その日、その時、
えないで下さい。貴方や貴方の大切な
いじゃないから大丈夫、関係ないと思
垂水区だけでなく、住んでいるのは海沿

揺れがやんだら即逃げて！

これで住宅街への浸水は防げるとい
う事でありませぬ。大変結構な事であり
ます。

でも、あえて、私は申し上げます。
垂水区内でも、区外でも、海沿い、川
沿い、標高の低いところはもとより、
神戸市内の元町・三宮・神戸地区をは
じめポートアイランド・六甲アイランド
、海沿いの商業施設、港湾施設、物
流倉庫、企業、学校、工業団地等々ど
こにいる方々も、「南海トラフ巨大地震」
が発生したら、揺れがおさまると同時
に避難して下さい。

考えること(揺れている内に)は、
①高<！高<！
②揺<！揺<！即逃げる！です。

出典：NHK



通動通字途中かもしれません。海
岸線・川岸から①高<！高<！②揺
>！揺<！即逃げて下さい。
3.11の悲劇をくり返さないで、
という被災者の皆様の声に素直に従
いましょう。想定外の事が起きると
思っていて避難する、逃げる事が大切
です。
学校やお勤め先が兵庫県内ではな
くて、大阪府や大阪府の方もあら
ると思います。是非YouTubeで河田
先生のお話を聞いてみて下さい。
※フエイン情報にご注意を！

●気象庁/JMA YouTube 津波防災啓発ビデオ 「津波からにげる」(アニメ) 4分40秒 2020/03/25



●読売テレビ 南海トラフの巨大地震 大阪を襲う「河川津波の脅威」 14分32秒 2022/03/11



●読売テレビ 大阪湾でも発生のおそれ “黒い津波の正体” 15分43秒 2024/03/05



津波が発生したらその時どうする？
NHK災害列島 命を守る情報サイトも見て下さ
いね。



〈大阪の情報〉

#NHK防災これだけは
大阪市これだけは(梅田の津波、
繁華街の揺れ)

- ①梅田にも津波が来る
声をかけあって逃げて
- ②目指せ！新御堂筋より東
- ③ビルに上がる時は3階以上へ！



〈神戸の情報〉 PDF

神戸市都心部における津波避難行
動、誘導指針(概要版)



よっしー通信は、垂水の“よっしー”こと、
兵庫県議員

吉岡 たけし の報告紙です。

くらし満足度No.1の垂水を目指して、
神戸市垂水区と兵庫県政を
つなぐことを目的に、兵庫県の
政治を分かりやすく伝えます。 兵庫県議会 自民党 議員団



- プロフィール
- 1962年10月13日生まれ
- 灘中学・高校卒
- 早稲田大学法学部卒
- アンリツ(株) 官公営業部
- 千代田火災(海上保険㈱)
- 横浜支店・神戸支店
- 衆議院議員 秘書
- 参議院議員 政策担当秘書
- 2015年 兵庫県議会議員選挙初当選
- 産業労働常任委員会委員、建設常任委員会委員
- 自民党県議団 政務調査副会長
- 警察常任委員会副委員長
- 2019年 2期目当選(17,392票)
- 総務常任委員会副委員長
- 自民党県議団副幹事長
- 総務常任委員会委員長
- 2023年 3期目当選(19,741票)
- 建設常任委員会委員長
- 自民党神戸市垂水区第一支部長

ご意見・ご相談については下記までご連絡ください。
兵庫県議員の権子をインターネットでご覧いただけます。
発行日：2024年3月31日
発行元：兵庫県議員 吉岡たけし事務所
TEL：078-708-8600 FAX：078-708-8610
〒655-0034 神戸市垂水区仲田1-8-24-101

インターネット放映中 本会議の代表質疑・委員会での
質問などが手帳に印刷されます。

https://take-yoshioka.com

吉岡たけし議員

01 自分の命は自分で守る。行動パターンに即したマイ避難カードの作成推進運動の強化に向けて。



南海トラフで発生する千年に一度程度の最大想定地震・津波に向けて、事前の備えが万端であれば、地震の被害は確実に減らすことができます。とりわけ津波による人的被害は、逃げることにより激減します。このため、何よりも避難対策の徹底を中心としたソフト対策を推進することが重要と考えます。

地域で助け合う共助、行政による公助が一体となって補い合う諸対策を推進する中でも、県民一人ひとりが自分の命や財産を自分で守る自助が何をおいてもまずは基本であり、何が何でも自分の命を守ることを最優先とする準備、行動が取れるよう、県としても導いていかなければならないと考えます。

一人ひとりが巨大地震・津波災害を前提とした必要な対応行動をシナリオ化し、自らの災害対応力を高めることが、まさに生き残る道であると確信をいたしております。このためには、マイ避難カード作成取組の深化、深掘り

が最適な方策と考えます。逃げ遅れて犠牲者にならないよう、自身による主体的な避難が何よりも重要だからです。

地震発生時に適時適切に避難できるよう、平時からハザードマップなどで自宅周辺、最寄り駅までの道中、利用する沿線・道沿、乗換えの駅・ターミナル、仕事場までの道中、仕事での訪問先、昼食に行く先を確認することはもとより、よく行く繁華街やたまたまの出張先や旅行先、行業の行き先、買物の行き先等々、立ち寄り先の地域の危険性も都度ハザードマップ等で確認し、そしてまた、早朝、通勤・通学時、昼間、夕刻、夜間、深夜と、また曜日も関係します。平日、土日祝日、機遇にもそのと、その場所での命を守る最善の行動は何なのか、これを常に考えておく必要があります。

マイ避難カードを幾パターンにもわかりやすく作成することにより、家族一人ひとりが自分自身であらかじめいつ、どこに、どのように避難するかを決めておき、いざというときの避難行動に役立てることができます。行動パターンに即したマイ避難カードの作成推進運動の強化に向けて、県当局のご所見を伺います。

防災監兼危機管理部長（遠藤英二）答弁

マイ避難カードの作成推進運動の強化についてお答えいたします。

激甚化する自然災害から命を守るためには、県民一人ひとりが災害を我が事と捉え、平時から自分の命は自分で守るという防災意識を持つことが大切です。

県では、避難所への避難率が低調だった平成30年7月豪雨の教訓を踏まえ、洪水、土砂災害、津波、高潮、ため池の五つのハザードごとに避難のタイミング、避難の場所、ルートなどを自ら検討して記載するマイ避難カードの普及に努めております。

発災時には、災害の種類や大きさ、時間帯などにより、在宅避難も含め様々な避難行動が考えられます。このため、一つにマイ避難カードの作成の手引や多様な避難の手引、これを活用しまして、場面に応じた避難の必要性を理解すること。そして、2つ目には、ひょうご防災アプリの中のマイ避難カードを、ハザードマップを確認しながら複数作成する機能を用いて、多様な避難方法を考えるきっかけづくりに取り組んでまいりました。

加えまして、更なる進化に向け、一つに、県防災部局が市町を個別に訪問して指導・助言する防災力強化連携事業の中で、このカードの作成の働きかけ、二つに、県内小学校区単位で順次行われるワークショップへの専門家の派遣、三つに、ひょうご防災リーダー講座での周知、四つに地域の避難訓練での活用などに取り組みまして、日常生活に応じた複数のマイ避難カードの作成とその活用を積極的に促してまいります。

先の8月の台風第7号では、香美町で本県初の緊急安全確保が発令されましたが、ふだんから状況に応じた避難方法を確認しておくことが重要だと再認識したところでございます。

今後とも、市町と緊密に連携しまして、マイ避難カード

の更なる普及を通じて、県民一人ひとりの防災意識の向上、そして災害時の着実な避難行動につなげてまいります。

予算特別委員会 令和6年3月5日（水）総務部財務部危機管理部長 吉岡たけし議員

02 南海トラフ巨大地震の津波到達時間の正しい理解について。

今回の質問に当たりまして、NHKのWEB配信の大阪放送局災害担当記者藤島さんの署名記事を見まして、そこで大阪管区気象台の地震火山課さんのマスコミ向け勉強会を受けてきたという記事でしたので、そこに連絡。そうしたところ、折り返し、神戸地方気象台の伊藤嘉紀 南海トラフ地震防災対策をご紹介頂いて、実に懇切丁寧にご教示を賜ったところでありました。

藤島記者の記事の通り、気象台は、南海トラフで巨大地震が起きた場合には、大阪湾に津波が到達するまでの猶予時間を10分から20分程度と発表する可能性がありますとの事でありました。

ちなみに我が神戸市垂水区では、ハザードマップ等で毎年6月に住民の皆さんにお知らせしているところでありますが、到達時間が80分と周知してきております。

2パターンの到達時間が生まれる理由は、「どの時点まで津波の到達と考えるか」に違いがあるからです。気象庁は沿岸部で、潮位の変化が始まる時、これを津波の到達と



してありまして、なぜならば津波が1メートルを超えるると巻き込まれた人の死亡率が100%になる上、街中にも大きな浸水被害が出る恐れがあり、目安としております。要は呼びかける目的や対象の違いが大きな時間差に繋がっている点であります。

多くの自治体の担当者や専門家からは、「この時間差について知らなかった、戸惑っている」という声が、この藤島記者の取材では聞こえてきたそうでありました。

京都大学の防災研究所矢守教授も、「2つの津波到達予想時刻の意味の違いを十分理解し、その時が来るまでに社会の常識としておくことが絶対に必要です。」と断言されております。突然襲う激しい揺れ、その時、海の中や海岸・川沿いにいる場合には直ちに高い場所に避難。一方、内陸にいる場合は決して決してパニックにならず、冷静に、そして直ちに速やかに、避難を始めることが大切。さらに言うならば、10分から20分、80分という数字も、あくまでシミュレーションに基づく想定であります。現実には震源が近ければあっという間に大津波が来るし、逆に想定よりも時間がかかることも起こり得ます。

気象庁によると地震の発生から15分程度が経過しますと、マグニチュード8越えの巨大地震であっても、その位置や規模がわかるため、予想される津波の高さや到達時刻の情報を更新する可能性が高いということでありました。それと伊藤さん仰ってました。「スマホ等の電波状態がどうなるかわかりませんよねって。情報を得るためにやはり携帯ラジオかなにか、いざという時の物は持っていて欲しいと。それ必需品です。情報をまめに確認し、避難に役立てることが何よりも大切。

1メートルの高さが致命的、30センチの津波が狭い隘路に入り込んだ瞬間1メートル以上になる事も、そうなればその場に居合わせた貴方の命はなくなるんだよ。こうい

って情報を出します。わずかな潮位の変化でも影響を受ける、海の中で作業している人や海岸で遊ぶ人などに、すぐに逃げてという意味での避難を促すためであります。

一方、神戸市側の80分という時間は、国、兵庫県が平成25年に公表致しました、津波の想定が根拠になっております。自治体では沿岸部で「津波が1メートルの高さになる時」を到達時間としてありまして、なぜならば津波が1メートルを超えるると巻き込まれた人の死亡率が100%になる上、街中にも大きな浸水被害が出る恐れがあり、目安としております。要は呼びかける目的や対象の違いが大きな時間差に繋がっている点であります。

うことも是非とも知っていて欲しい。」と。これまで述べてきた通り、2つの津波到達時間の正しい理解醸成が大切だと思っておりますが、県民にこの事をどのように周知していかれるのか、当局の所見を伺います。

危機管理部 総務課長 答弁

県のホームページ等における、津波到達時間は国検討会の報告に基づき、津波が初期水位より1メートル上昇する時間としております。

これは国と同様の考え方をを用いることで、混乱が生じないよう、決定したものであり、一定の意味があると考えております。ご指摘のように、どの時点でも津波の到達ととらえるかによりまして、到達時間が変わりますが、津波から命を守るためには、強い揺れや長周期地震動を感じた場合に、県民一人一人が躊躇せず即座に避難行動を開始することが重要です。

このため個別避難計画や、避難カードの作成による事前の自主的な避難対策、CGハザードマップのリニューアルによるわかりやすい情報発信。また市町に対して、気象庁発令に基づく、速やかな避難指示の発出要請、そして、市町、学校、民間企業などの多くの参加者のもと、毎年実施している、津波一斉避難訓練など、県民の避難意識の醸成に向けた幅広い取り組みを行っているところで。来年度国が改定する南海トラフ地震防災対策推進基本計画を踏まえ、本県の浸水想定等の見直しに着手致しますが、津波到達事件時間を初めとしたシミュレーション結果につ

いても、市町とともにわかりやすかつ確に県民に伝えて参ります。

吉岡たけし委員 コメント

今ご答弁を頂きまして、答弁中にもございました、国の基本計画の改定、能登の発災によりまして若干時期がずれるという発表もございましたが、しっかりと県の方もそれに合わせて、こちら側も、想定時間等々正しい情報の発信となるように努めて頂ければと思います。やはりマグニチュード9.1というのが最大想定で気象庁の方は考えていて3分ぐらいで、まずは出すと。その時の発表の到達時間は10分から20分。ただその時こうおっしゃってました。これ本当に知って頂きたい。全割れ、半割れという言葉がありますか、いずれの場合であっても、南海トラフがマグニチュード9.1なんかで動いた時には、これは当然淡路島まで、動くところに入ってるんだと。そうなる淡路島発の津波に襲われる兵庫県、神戸市、大阪湾こういう構図になるんです。ということは10分と言いますけれど。揺れに気づいて、充分揺れがおさまってから避難準備に下手して大きく手間だったりしていたら残り4分しかないとなった、そこでどう自分の命を守るか。

だからこそ10分という方もしっかり伝えて欲しいんだ、これが気象庁の伊藤さん官から、県政の皆さん、当局の皆さんにもよろしくお伝えくださいと。こういうことでございました。